

平成30年度 区長会との意見交換会 実施報告書

- 1 日 時 平成30年11月22日（木）
午後3時から午後4時31分まで
- 2 場 所 愛川町役場庁舎 4階会議室
- 3 参加者 愛川町区長会（18人）
- 4 出席者 議長 小島総一郎 副議長 井出 一己
議員 井上 博明 議員 小倉 英嗣
議員 小林 敬子 議員 馬場 司
議員 山中 正樹 議員 熊坂 弘久
議員 渡辺 基 議員 佐藤 茂
議員 木下眞樹子 議員 佐藤 りえ
議員 熊坂 崇徳 議員 鈴木 信一
議員 岸上 敦子 議員 阿部 隆之
(以上、16人)

5 内 容

- (1) 前回（平成28年度）区長会との意見交換会実施報告
- (2) 高齢化の進行に係る本町の現状について
- (3) 区長として活動する中、これまでの成果と課題について

6 記 録

別紙のとおり

平成30年度 区長会との意見交換会記録 (要点筆記)

(司会：阿部議員)

1 議会報告

前回（平成28年度）区長会との意見交換会実施報告

＜報告者：熊坂崇徳＞

(意見等なし)

2 意見交換

- (1) 高齢化の進行に係る本町の現状について
- (2) 区長として活動する中、これまでの成果と課題について

【主な意見等】

問 高齢化に伴い各行政区も非常に苦しい時代に入ってきたと思います。喫緊の問題として考えていく必要があると思いますが、本町の現状等とこれからの対応について考えを伺います。

答 3月31日現在の高齢化率は28.4%で、高齢化率が一番高い地区は川北、次が下谷八菅山、3番目が宮本です。逆に低い地区は六倉、半縄、大塚という順です。

本町では、こうした高齢化が進む中、ひとり暮らし高齢者の見守りサポート事業など、高齢者の生活等に関わる事業に積極的に取り組んでおり、また、高齢者世帯に様々な助成をする支援事業についても拡大する動きがあります。町議会としても、高齢化の問題については、健康の問題と合わせて今後は多死社会などについても考えていかなければならないことから、一般質問などにおいて引き続き取り上げていきます。

問 個々の高齢者対策も大事であるが、高齢化・少子化・人口減少の問題による医療・介護に対する財源の確保などについても、町民に直接関わる非常に重要な問題であると考えがどうか。

答 人口減少の問題は、本町でも様々な取り組みを行っていますが、やはり町も法律の中で制度を運用していることから、基本的には国の政策として対策を講じる必要があるのかなと思います。今後においても、なるべく医療や介護に対する負担が生じないように、行政や議会において、国の社会保障に対する負担割合の改善を求めるなどの取り組みが必要であると考えています。

問 18歳で高校を卒業して、大学への入学や就職で町から転出してしまう若者が多いと感じている。こうしたことは、高齢化や人口減の主な原因の1つであると考えているが、若者の流出を抑止する取り組みや研究は行っているのか。

答 若年女性の減少率が50%を超えると消滅都市といわれており、本町は48.6%でほぼ消滅都市に近い状況です。新しい産業を開発し、企業や産業が入り込むことで若い人たちが定住をしていただけるような魅力ある地域づくりが必要であると考えています。

例えば、2040年までに人口が増加すると言われていた秋田県の大潟村では、農業振興において個人の力で自分の販売経路を開拓するなど、平均の年収がおよそ1,500万円から2,000万円程度あり人口は減少していない状況です。

今後においては、こうした定住化させていくための施策をしっかりと提案していきながら議論しないと高齢化を止めることは難しいことから、町の魅力をいかに創出していくのか、皆さんと知恵を出し合って創っていく必要があると考えます。

問 母親が復職しやすい環境づくりや若年層の求める働く場所の提供など、生活上の利便性向上のために、シルバー人材センターと空き家対策を結合した簡易保育所などを設置する考えについて伺います。

答 教育民生常任委員会で、富山型と言われる有名な福祉施設を視察しました。高齢者、児童、障害者という壁を取り払った形態となっており、そこでは誰もが一緒に生活できるというサービスになっています。本町でも同様の施設ができればという希望を持っています。

問 町が補助している電動アシスト三輪車について、現在どのくらいの方が購入・利用されているのか。

答 正確な数字は把握していませんが、中津地区では2, 3台の需要があると伺っています。

平成31年2月1日現在、電動アシスト三輪車は6台の購入・利用があります。

問 町では行事がかなり多く、良い面もありますが、動員に苦慮する部分もあります。例えば、ふれあい体育大会の実施方法の角度を変えて、区のみinnで散歩をするなど、お金をかけずに発想の転換をしてもらいたいと思いますが、議会の中で議論はしないのでしょうか。

答 行政区の皆さんには、動員等に大変ご苦勞されていると思いますので、行事やイベントの整理、縮小は、今後検討しなければいけないと思っています。見直しについては、議会としてもそれぞれの常任委員会でも検討し、議会の総意として提案ができるようにしていきたいと考えています。

問 区の消火栓を確認したところ、消火栓の近くにホースの入った消火栓ボックスがないところが10箇所ほどあります。消防団が5割、町が5割の負担となっていますが、町が率先して整備する項目ではないかと思います。実際に現地を見ていただきたいと思います。

答 現地を確認します。基本的には全部の消火栓に消火ボックスを設置することが望ましいと考えます。

問 六倉区は、1年間で60世帯の人口が増えています。そのため、新たに防犯灯などを申請しましたが、年間16件しか設置できないと言われました。町内21行政区あるのに、16件では、1行政区1件に満たないこととなります。よって、新たにカーブミラーや防犯灯を増設する必要があると思いますが、考えを伺います。

答 平成29年度は年間の防犯灯設置の予算は8基でした。議会において予算審議をしている中で、基数をもっと増やすように要望したところ、平成30年度予算は16基となり、予算を増額することができました。まだ暮らしに密着した住民の要望に耐え得る予算措置がされていないというのも現実にありますので、皆さんの声をしっかり受けとめて対応していきたいと思います。

カーブミラーについては、平成30年度に8基設置しています。

問 中津地区では、外国籍の方が家を買って永住することがあり、自治会への加入をお願いしても言葉が通じないことがあります。今後、外国籍の方が増加してくる中で、日本語教育をできるだけ安価又は、無料で講座を設けていただきたいと思いますが、考えを伺います。

答 町では、小・中学校の日本語指導協力者派遣経費を予算計上し、12人の日本語指導協力者を派遣することにより、小・中学校の国際教育の推進に努めています。今後においても、徐々に拡大しながら努めていきたいと考えます。

【その他の意見・要望】

- ・ 地域コミュニティの活発化のため、町のモデル事業として「健康いきいき100歳体操」を行った。参加した方は、健康面やメンタル面において大きな成果を実感している。今後も継続していただきたい。
- ・ 区長として活動する中、犬の鳴き声や猫が子供を産んでしまったなどの近隣のトラブルや、道路等の雑草問題、ごみ置場の位置問題など生活に関わる苦情が多くあった。こういった問題が町全体にあるのだと感じた。
- ・ 毎年、道路補修の要望を行っているが、査定の結果、見送られてしまうことがある。議員からも町民の目線に立った判断をしてもらえるよう提案していただきたい。

※ このほかにも、各区長より、これまでに取り組んだ活動の成果等について報告があった。

- ・ 春日台サポートチームを編成し、公園や街路樹の草刈りを行った。
- ・ 高齢化や行事に参加できない方が増加したため、自治会費の値下げを行った。
- ・ 青パトによる防犯パトロールを行った。
- ・ 加入世帯への非常食の配布や、区で買い物や行事に参加するとサービスやプレゼントが受けられる「自治会員証」の作成など、自治会加入のメリットを感じていただくための取り組みを行った。
- ・ 75歳以上の1人世帯は区費を半額にしている。 など。



区長会との意見交換会の様子